

しょうがいしゃ

ちいき せいかつ じょうほうし



「障害者」の地域生活情報誌

Vol. 42

ぶるーむ.com

2019.3

ふゆごう
冬号

～ じぶん せいかつたの 自分^{じぶん}の生活^{せいかつ}楽しんで^{たの}いますか？ ～

ことし はじ 今年^{ことし}も始まり^{はじ}ましたね！！



CONTENTS

P2 40号記念記事^{ごうきねん きじ} その3

P4 Oh-Life!!

P6 意^いのまま気^きままな独^{ひと}り言^{ごと}

P8 いただき^{またき}松木^{えい}栄^い二^じ第^{だい}4回^{かい}

P9 活動^{かつどう}報告^{ほうこく}

P9 総会^{そうかい}報告^{ほうこく}

◆「ぶるーむ」の由来◆

英語^{えいご}のbloomをひらがな^{ひらがな}表記^{ひょうき}したものです。
bloomには、「(花^{はな}が)咲^さく」「(才能^{さいのう}・事業^{じぎょう}な
どが)花^{はな}開^{ひら}く」などの意味^{いみ}があります。この
北九州^{きたきゅうしゅう}の地^ちで、自立^{じりつせい}生活^{せいかつ}の土^ど壤^{じょう}をあらため
ておこすこと^{こと}から始^{はじ}め、それ^{それ}ぞれ^{ぞれ}の自立^{じりつせい}生活^{せいかつ}
の種^{たね}を植^うえ、色^{いろ}とりどりの自立^{じりつせい}生活^{せいかつ}の花^{はな}が咲^さ
きほこるとい^いう願^{ねが}いをこめました。

「障害者でも地域で、当たり前前の生活を」という理念は、ぶるーむ設立当初から謳われていた。そして、そうあろうと常に動いてきた。しかし現実の社会は、理念を声高に掲げなければならないほど未熟である。「当たり前」の生活をするために、必死に「当たり前」じゃない努力をしなければならないのが現状である。

一昔前、命を賭けて地域生活を勝ち取ろうと、障害者運動は歩み始めた。時代が変わり制度や環境が整ってきても、あの頃の上り坂の延長線を今も登り続けているに過ぎない。運動を怠れば、地域の当たり前は奪われ、転がり落ちて元いたところに戻ることにさえある。ぶるーむはそれを学び運動性を強めてきたが、ヘルパーステーションあいえるの当時の利用者にそれを共有してもらうことは難しかった。

「障害者はお客様ではない」「介助者は親でも友達でもない」という言葉は、自立生活センターでは当たり前と言われる。しかし、これを頭で理解できても本当に納得して実践できるあいえる利用者は少なかった。一方で、障害のない者と同じように、自由で当たり前前の生活はしたいと誰もが望んだ。客として、それを実現させるよう介助者やぶるーむに求めた。自立生活センターなのだから、と。

当初、ぶるーむもこれに応えようと必死になったが、結局は介助者やスタッフに無理をさせただけで続かなかった。多くの介助者が去り、障害者の生活は立ち行かなくなり、それでも常勤スタッフが休みなく働いた。先の見えない過労に崩壊寸前だった。

障害者自身が変わらなければ、介助者の負担は減らない。もはや自立生活は維持できない。

原点である「当事者主体」を徹底して追求・実践することからはじめるしかなかった。「障害者はサービスの客体」という従来の福祉感から脱却し、障害当事者に対するエンパワメントこそ求められる役割であることを自覚した。「自立とは何か」、「介助とはどうあるべきか」を突き詰めていく中で、本来あるべき介助者との関係を模索した。

(失敗する)権利としての介助保障、それによるエンパワメントの実現。そのための指示介助の徹底。それを可能にする自立生活プログラムの再構成など、今も模索は続く。活動中の介助者は挨拶もおしゃべりもしないというスタイルも、当事者主体の極端なアピールだが、そこまでしないとぶるーむは変われなかった。

指示介助の徹底や介助のあり方に不満を持って去っていった障害者やスタッフが多く出た。その精神的なダメージは大きかったが、介護収入の減少によるダメージも大きかった。それでも残った者で議論と実践を重ねて、一からやっていくほかなかった。

そして、そんな中で生まれたのが、長時間介護利用障害者によるチーム制だった。これは介助者をシェアせず、また、障害者自らが介助者募集から面接、採用、育成、派遣調整、評価、労務管理などを行う。コーディネーターすら介さない点で他のセンターでも行われていない試みである。見方によっては、この一連の試みは過去の障害者運動をなぞってきただけに映るかもしれない。あるいはパーソナル・アシスタンス制度の導入のように映るかもしれない。いずれにせよ、いま、ぶる一むにとって必要なことは何か、という真摯な議論を重ねて生まれたものである。

成立から 11 年があっという間に過ぎたように思えるが、こうして改めて振り返ると、試練の連続でとてもすべては書ききれない。今でもあっぴあっぴしながら活動している。おそらく、これからもあっぴあっぴしながら活動は続いていくのだろう。

※パーソナル・アシスタンス制度…スウェーデンの自立生活運動の創始者であるアドルフ・ラツカが提唱。簡単にいえば、利用者がボスになることを意味する。

Oh-Life

第20回 大真面目な黒歴史

K II

僕が20代でいる時間も残りわずかになってきた。今回の会報を皆さんに読んでもらうころには、僕ももう立派な30代である。大学を卒業してぶる一むに関わるようになってから、楽しいことも大変なこともたくさんあった。だが今では、ぶる一むで会報を作ったり、1人暮らしをしたり、講師の活動に多く関わるようになってたりなど、わりと充実した日々を過ごしている。まあツッコミ所は多いだろうが、色々なことを含めた自分の現状を考えれば、手堅い30代入りだったのではないかと思う（笑）

だが、10~20代前半のころの僕は、30代の自分をどのように考えていたのだろうか？まず30歳の自分が、障害者の団体でいろいろな活動をしているなんて、全く想像していなかっただろう。なぜなら、昔の僕は、福祉色のある活動や人とは極力関わりたくなかったからだ。当時は、障害者というだけで、「障害者スポーツや福祉色の強い活動に興味があって当然」・「障害者だから、健全者にはない個性や人生があって当然」という雰囲気がとても強かった気がする。そして、10代の頃の僕はそのことに強烈に反抗していた。

高校の夏休みの宿題で、人権か平和のどちらかをテーマにして作文を書くという課題があった。僕はどっちを書くか悩んでいたのだが、「K IIくんは自分の障害のことを書けば良い人権作文になるよ」的なことを言われた。確かに、自分の障害のことを書いた方が、僕も書き易いし、評価も良くなるだろう。だが、この時期の僕が素直に人の勧めに従って人権作文を書くはずがない。僕は迷わず平和作文を選んだ。まあ、勢いで平和作文を選んだものの、特に平和について何か書きたいというわけでは無かった。なので、文章作りには苦戦したのだが、当時見ていたガンダムシリーズのヒロインの台詞を練り込みながら、どうにか作文を完成させることができた。

あとは、ドヤ顔で提出してこの話は終わり・・・というわけにはいかなかった。提出からしばらく経ったある日、担任の先生が「あの時の作文、弁論大会の予選に選ばれたよ。おめでとう。」と言ってきた。なんでも、審査した先生がビックリするくらいの良い出来だったらしい。そういえば、先に読んでくれていた母の評価も珍しく悪くなかった。嬉しいことなのだが、当時の僕からすれば、痛恨の大誤算である。もし、予選を通過してしまったら、僕は全校生徒の前でラクス・クラインの台詞を読み上げることになってしまう。

くわ ぼく こうこう たいいくかいけい せいと りゅうこう の じゅう せいと たいはん し
加えて僕の高校は体育会系の生徒と流行に乗ってるリア充な生徒が大半を占めていた。
とうぜん のことだがオタクに市民権は無い。この時の僕の恥ずかしさと後悔は、筆舌に尽くし難
いものだった。まあ、いろいろありつつも、結果は予選落ちだった。落選したのにととても嬉
しかったというのは、この時くらいしかなかっただろう。

おも いじょう はなし なが
思った以上に話が長くなってしまった。当時は大真面目にやっていたのだが、改めて振
かえ けっこう かん けっか よそういじょう は
り返してみると、結構やらかした感じがして、予想以上に恥ずかしくなってくる(笑)

ふくしがくしゅう こうえん ね はなし ほか か
「福祉学習の講演でずっと寝たふりしてた話」など、他にも書きたいことはあるのだが、
こんかい
今回はここまでにしておこう。

ぼく さい こう しょうがいしゃ だんたい ほか こうしかつどう
こんな僕が、30歳になる頃には、障害者の団体に関わり、講師活動をしているのである。
もし、当時の僕がこのことを知ったら、さぞおもしろいリアクションをしてくれること
だろう。だがこれも、ぼく ねんげつ けいけん かせ なか しょうがいしゃ だんたい ほか
活動をしたい」と考えるようになったからである。こちらへんの僕の心の変化の話もち
ゃんと書きたいと思っているのだが、書くにはもう少し年月が必要だなと思う。

か
と、いろいろ書いているうちに、気づけば30代に突入していた。次の節目は40歳だが、
きっとこの10年でも様々なことを考え、変わっていくのだろう。正直、10年後の自分な
らんで全く想像できないが、楽しみ半分・怖さ半分ぐらいの気持ちで日々を過ごしていこう
と思う。

意のまま気ままな独り言

ソノ

とある日のこと。バスを降りると、そのバス停のベンチに大きめのキャリーバッグを持った男性と女性の二人組の観光客（たぶん）が腰掛けていました。男性は時折立ち上がり、日本語ではない言語で忙しく電話をしている様子。女性の方は、誰かを待っているのか、何かを探しているのか、キョロキョロと落ち着かない様子。

その様子を見て、これは日本に観光で来ている外国人が困っているパターンのやつだ！そうに違いない！と思ったわけです。そして、何かできることはないかと話しかけることにしました。

「May I help you?」

すると、少しばかり驚いた様子で

『ワタシニホンゴスコシダケネ』

と苦笑いで返されてしまいました。英語で話しかけたつもりなんだけど、おかしいなと思

「Are you in trouble?」

と、次は尋ねてみた。すると…

『トラ…チョラ… travel! ハイ、リョコウデス』

と返されてしまった。ここで失敗だったのが、英語の内容を変えたことだったのか、文法的にどうだったのかはわからないけど、伝わっていないのは確かだったので…

「travel じゃなくて、trouble! トラブル。チョ! リャ! ブリュ!」

と、単語だけを強調して尋ねてみた。すると今度は…

『エイゴハワカリマス! ナニカテツダイデスカ?』

と返ってきた。必死さが裏目にてしまったのか、こちらの意図を完全に誤解させてしまった。そして、相手は自ら中腰姿勢をとり、いつでもどうぞと言わんばかりに助ける側へと立とうとしていた。

「(この際、何かを手伝ってもらうことにするか。いや、それじゃ意味がないし、この状況こそ相手を一番困らせているかもしれない。なんせ、おれ自身はもう困っている。どうすればいいのか。あっ!) 携帯だして!」

携帯画面で<trouble?>を直接見せることに気づいたおれはすぐに携帯を取り出し、助けを求めているのではなく、Youを助けたいんだ!ということ伝えました。程なくして、相手は“助けてもらう側”だったんだということを察し、こちらの意図を理解してくれたわけです。ただ、結果的にまったく困っていなかったようなので、本当に自分が困らせていただけでした。

障害がある身だから余計にそう思うのかもしれませんが、このことで親切にするとか優しさってものを難しく考える自分がいます。

障害があると親切や優しさを求められることや与える機会というのではないに等しく、一方的に受けることのほうが多いです。その親切や優しさを受けることで困ることもあれば、助けられることもあります。与えた側は嫌がられることもあれば、感謝されることもあります。

ようは、うまくいけば親切となり、うまくいかなければ余計なお世話となってしまうわけですね。何もしなければいいという考え方もありますし、何もしないことがいいときもあるので、これがまた難しい。

他にも迷子の子を助けたらテレビで取り上げられるぐらい感謝される一方で、助けようとしたら誘拐犯扱ひされたという人もいます。お年寄りに席を譲ったら喜ばれたとか、怒られたとかもよく聞きます。まあいろいろあるわけですけど、これで残念だなと思うのが、怒られた人や嫌がられた人がその親切な行為を辞めちゃうってことを聞いたとき、なんか凄くもったいない気がするんです。

いろんな考え方があっていいと思うんだけど、お互いがwin winの場合だけじゃないときは、例えば、助けが必要のない人は助けが必要な人のことを考えて行動することが必要なかもしれないし、助ける側も悪意のない善意で知らず知らずのうちに傷つけないような知識が必要なのかもしれないし、どうすればいいんでしょうね。

とりあえず、まず自分の場合は発音の練習からなのかな。いや、こんなこと考えてたら何もできない。もっと単純に簡単でいいはずですよ。

えいじ だいよんかい いただきまつき栄二 第四回

この間、区役所の人^{あいだ くやくしょ ひと}が来て、介助時間数^{かいじょじかんすう}に関わる聞き取り^{かきと}を受けたけど、自分^{じぶん}が慣れてないせいか、何も^{なに}考え^{かんが}ないで質問^{しつもん}に答え^{こた}えたりしかけたから気^きをつけないといけないと思^{おも}った。友人^{ゆうじん}に付いてもらっていたからいいけど、いなかったらいたい、どうなってしまっ
ていたんだろうかな。たぶん^{いま}今の状態^{じょうたい}だったら、変な契約^{へん けいやく}とかしてしまうんだろうという気^きがする。

でも、それは今^{いま}まであんまり人の話^{ひと はなし}を、よく考え^{かんが}ないで適当^{てきとう}に話^{はなし}をしてきたことなん
だなと、気が^き付いた。これから役所^{やくしょ}と交渉^{こうしょう}を何回^{なんかい}もしていくのに、果たしてこんなこと^はで
大丈夫^{だいじょうぶ}なのかと、不安^{ふあん}になってくる。

話^{はなし}は変わるけど、先週^{せんしゅう}にこんな夜更け^{よ ふ}にバナナかよという、ボランティア^{あつ く}を集めて暮ら
していた人の映画^{ひと えいが}を見て、ジャローズ^みの人^{ひと}を主役^{しゅやく}に使^{つか}っていたりしたら、あんまり共感^{きょうかん}を持
てなかつただろうから、そうだったら見^みに行^いかなかつたはずだと思^{おも}った。でも、そうじゃ
ないからよかった。

まつきえいじ
松本栄二

しん やじかんたい じゅうどほうもんかいご 深夜時間帯の重度訪問介護^{しん やじかんたい}について

3月8日^{がつ にち きん}（金）、平成31年3月北九州市議会定例会一般質問^{ねん がつきたきゅうしゅうしぎかい いていれいかい いっぱんしつもん}で、中村義雄市議^{なかむらよしお しぎ}が「深夜時間帯^{しん やじかんたい}
の重度訪問介護^{じゅうどほうもんかいご}について」質問^{しつもん}してくださいました。（深夜時間帯^{しん やじかんたい}の）重度訪問介護^{じゅうどほうもんかいご}の支給^{しきゅう}
決定^{けつてい}については、ぶる一むでは昨年^{さくねん}から行政^{ぎょうせい}と交渉^{こうしょう}を続^{つづ}けていました。詳細^{しょうさい}はぶる一む
のfacebook^{けいさい}に掲載^{けいさい}されているので、是非^{ぜ ひ らん}ご覧ください。

かつどう ほうこく
活動報告

へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
平成30年12月~平成31年2月

がつ
12月



だい かいぜんこく たいかいかいかいしき
第29回全国ふうせんバレーボール大会開会式

しょうだんれんきだきゅうしゅうしいけんこうかいかい
障団連北九州市意見交換会

だい 11 かいつうじょうそうかい
ぶるーむ第11回通常総会

ぜんこく
JIL全国セミナー

よろず!

そうかいほうこく
総会報告

さくねん がつ にち ど じりつせいかつ
昨年12月16日(土)、自立生活センター
ぶるーむにて第11回通常総会を行いました。
お忙しい中、12人の会員の方が
出席してくださいました。(評決委任者
27名)

しわす いそが じき しゅつせき
師走の忙しい時期に出席して下さった
みなさま、ありがとうございます!!

がつ
1月



はつもうで
初詣

きたきゅうしゅうしりつだいがく ちいき たつじん でまえこうし
北九州市立大学「地域の達人」出前講師

よろず!

がつ
2月



しょうだんれん しんねん
障団連「新年のつどい」

いいんかいかいぎ
ピアカン委員会会議

かいじょしゃけんしゅう
介助者研修

りじかい
理事会



へん しゅう こう き
編集後記

なが あいだかよ がつ へいてん しこう ぼく れんさい
 長い間通っていたゲームセンターがこの3月で閉店するそうです。次号の僕の連載の
 ないよう 内容は、ほぼ決まりですかね。 【K II】

■ **ロゴについて** ■



この3つが繋がったチューリップには、3J = 「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願いがこめられています。

■ **会員募集** ■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」自らが中心となっていて行っていることです。これは、「障害者」にとって何が必要かということが一番知っているのは「障害者」自身であると考えるからです。

「自立生活センターぶるーむ」はこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会員種別	年会費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【銀行振込】 銀行名：西日本シティ銀行 室町支店
 口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平
 口座番号：1694039

編集人 連絡先 NPO法人 自立生活センターぶるーむ
 〒803-0818
 福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F
 TEL 093-562-5431
 FAX 093-583-3257
 E-Mail cil-bloom@nifty.com
 URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>

定価 100円